三珠中学校校長室だより
令和８年３月１１日発行
Ｎｏ.４２
文責　校長　　渡邉　康裕
三珠中ＨＰはここから↓

第65回卒業式　14名の巣立ち

３月１１日（水）、第６５回卒業式が行われ、卒業生１４名が学び舎を巣立っていきました。１４人のこれからの活躍と幸せな人生を歩んでいくことを心より願っています。以下は本日の式辞となります。

▼はなむけの言葉　あたたかな春の息吹が感じられるこのよき日。本日、令和七年度、市川三郷町立三珠中学校、第六十五回卒業式を挙行できますことに、心から感謝と御礼を申し上げます。▼今日まで我が子を慈しみ、育んできた保護者、そしてご家族の皆様、本日の卒業、心よりお慶び申し上げます。また、三年間の学校へのご理解とご協力に感謝申し上げます。▼さて、只今、中学校三カ年の全課程を修了し、卒業証書を手にした十四名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年間を共に過ごした仲間や後輩たちと離ればなれになることに一抹の寂しさを感じながらも、義務教育を修了した充実感や達成感と、四月からの新しい生活への希望に胸を弾ませていることでしょう。▼令和五年四月、ちょっと大きめの制服に身を包み、皆さんの中学校生活は始まりました。担任の先生は串松先生。それから今日まで、学校におけるみなさんの良き理解者、少し年の離れたお兄さんとして、みなさんの健やかな成長を支えてくれました。三年になり、新たに主任となった丹沢先生、そして所属の川口先生。さらには、ご事情により学校を離れた後も、今日、この日まで見えないところでずっと皆さんを想い、深い愛情で支え続けてくれた磯野先生。皆さんは、これらの大きな愛情に包まれ、この一年、目を見張る活躍をしてきました。▼ここで少し、最高学年としての皆さんの足跡を振り返ってみようと思います。▼四月十三日、大阪万博開催の影響で異例に早い時期の実施となった修学旅行。行きの新幹線、岡山駅では、昨年三月に転校した丹沢美夢さんとの再会を果たしました。停車時間一分という短い時間の中での出来事でしたが一生の思い出になりました。そして翌日は、山梨から約四百キロメートル離れた京都の地で磯野先生との再会も果たします。恐らく、日本広しといえども、これほどドラマティックな修学旅行をした学校はないでしょう。▼二学期に入り、昨年も災害級の暑さが続き、熱中症予防対策を余儀なくされた九月、第五五回希珠祭が行われました。十四人という、ここ数年の中では極端に人数の少ない中で全校をリードしなければならない三年生のみなさんにかかるプレッシャーは相当なものだったと思います。しかし、みなさんはそんなプレッシャーをものともせず、オープニングの希珠太鼓、感動の涙なくしては語れない演劇『戦争を知らない子どもたち』、全校合唱、体育の部縦割り班のリーダーシップと、ことごとく素晴らしい結果を残してくれました。▼昨年十一月十九日に行われた合唱発表会での学年合唱『群青』は、最高学年としての貫禄を示した圧巻の演奏でした。振り返ればその前年、合唱発表会直前に体調不良者が続出し、当日のステージに立てた生徒はわずか七名。それまでの練習の成果を発揮するには、あまりにも難しい状況となりました。それだけに、この学年合唱にかける思いはひとしおだったことでしょう。『努力によって、人はこんな高みにまで到達できるんだ』。皆さんの演奏はそんな思いを私に抱かせました。みなさんの何事にもひた向きに取り組む姿、そして、その努力を結果に結びつける力は、下級生の良い目標となりました。この一年、皆さんの後ろ姿を見てきた一、二年生が、その姿勢を引き継ぎ、四月からも三珠中を盛り上げてくれることでしょう。▼義務教育修了の門出にあたって、皆さんへ「はなむけの言葉」を贈ります。それは、「自分の頭で考え、自分の意志で行動する人になってほしい」ということです。今、皆さんが飛び立とうとしている世界は、決して穏やかなことばかりではありません。海の向こうでは、同世代の罪のない子どもたちが悲しい争いに巻き込まれている痛ましいニュースが連日報じられています。また、先月には私たちの国の未来を託す大きな選挙もありました。社会は今、かつてないスピードで、大きく、そして複雑に変化しています。このような正解のない時代にあって、最も恐ろしいのは、周りの「空気」や「同調圧力」に流されてしまうことです。「誰かが決めてくれるから」「みんながそう言っているから」と、考えることをやめてしまえば、私たちは簡単に、大切なものを見失ってしまいます。だからこそ、皆さんには世の中の動きに関心を持ち続けてほしいと思います。ニュースを見て、社会の動きに触れたときには、「自分には関係ない」と目を逸らすのではなく、「自分ならどうするだろうか」「何が本当に正しいのだろうか」と、まずは自分の頭で問いかけてみてください。その時に道しるべとなるのが、私が常々皆さんに伝えてきた『リスペクト』の心です。自分自身を尊い存在として大切にする。そして同じように、隣にいる仲間、さらには遠く離れた顔も知らない誰かのことも、自分と同じように尊い存在として想像し、思いやる。他者を心から尊重できる人だけが、本当に正しい道、優しい道を自分で考え、選び取ることができます。これからの人生、迷うことや、時にはつまずいてしまうこともあるでしょう。それでも構いません。どうか、自分の感性を信じ、他者を尊重し、自ら考え、一歩を踏み出す勇気を持ち続けてください。そんな人で世の中が満ち溢れたとき、平和で温かい社会が創造されるのだと、私は信じています。▼心豊かで瑞々しい感性をもち、希望に満ち溢れた卒業生十四名の前途に、幸多きことを願い、「はなむけの言葉」といたします。　　三珠中　校長　渡邉　康裕

卒業証書授与式
市川三郷町立
三珠中学校